

科目名	嚥下障害Ⅱ						授業の種類	演習	必修・選択		必須
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	配当学年時期	2年	後期	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 嚥下障害の基礎知識について理解し、それに対する評価法と訓練法を学び、言語聴覚士の役割と課題について理解できる											
<b>【実務者経験】</b> 言語聴覚士として蘇生会総合病院、川南病院に勤務。嚥下障害分野でのリハビリに從事経験。											
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 摂食嚥下障害について、多職種の中での言語聴覚士の役割や連携を理解し、嚥下評価法や訓練技術、口腔ケアの方法を修得する											
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 摂食嚥下機能の基礎とその障害への対応について理解できる 摂食嚥下障害について、国家試験に即した問題を解くことができる											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	摂食嚥下障害のメカニズムについて										
2	咀嚼、嚥下障害の神経支配について										
3	嚥下の年齢的变化										
4	嚥下障害の発症メカニズム（解剖と生理）										
5	嚥下障害の発症メカニズム（原因と分類）										
6	嚥下障害の合併症										
7	摂食嚥下障害の検査・評価（食事観察、音声・構音検査）										
8	摂食嚥下障害のスクリーニング検査										
9	頸部聴診法										
10	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査										
11	治療と訓練の適応										
12	間接訓練										
13	直接訓練（摂食訓練）										
14	目標設定、予後予測										
15	家族への指導、多職種との連携										
	定期筆記試験										
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学											
<b>【準備学習・時間外学習】</b> 授業の予習、復習を行うこと											
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											